

藤本蚕業デジタルコモンズ

藤本蚕業歴史館へのいざない

～藤本蚕業歴史館と所蔵史料の紹介～

【概要版】



藤本蚕業デジタルコモンズ

<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>

ネットで御覧いただけます

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業

「藤本蚕業資源活用事業」

2023年3月31日

藤本蚕業プロジェクト

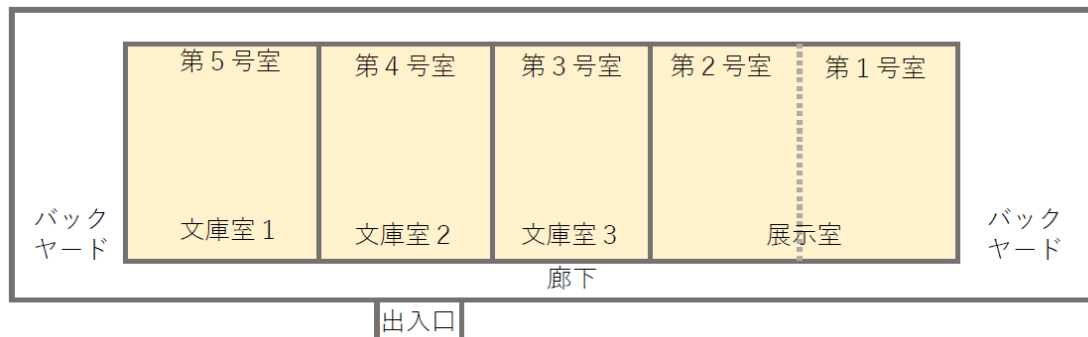
(事務局：長野大学前川道博研究室)

1. 藤本蚕業歴史館、歴史のタイムカプセル

「藤本蚕業歴史館」は、蚕種製造業を営んでいた企業「藤本蚕業」（1908年～、後に藤本工業）の社屋2階に開設された文書館（アーカイブス）兼展示施設（ミュージアム）です。文書館機能と展示機能を併せ持つ施設であることから「歴史館」と名付けました。2009年10月に開設しました。



藤本蚕業社屋は1927年(昭和2年)に竣工した歴史的建造物です。2階には蚕種製造を行う蚕室が5室(第1～5号室)ありました。現在はこれらの5室と廊下の一部を文庫室兼展示室として利用しています。



1962年、藤本蚕業は藤本工業に社名変更し、1966年には蚕種製造を廃止しました。その

後、藤本蚕業の社内文書、所蔵文庫等は、社屋2階などに廃棄されることなく残り、それらが藤本蚕業歴史館の所蔵資史料となりました。

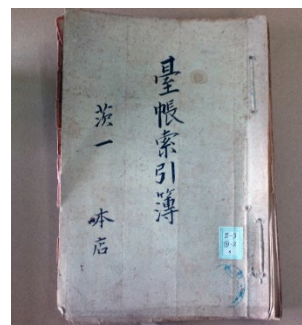


各部屋と廊下には文書単位に史料 ID を付与して整理した史料が収納されています。



書庫には袋詰めされた文書が収納されています。文書の配置は書庫1から3に分け、『史料目録』に収録された分類の順番に従って収納されています。数十年の時を超えて社屋がタイムカプセルとなり、通常であれば、廃棄されたりして後に残ることがなかった雑多な資料群が現代に残されたことはかけがえのない「歴史的証言のタイムカプセル」です。

それぞれの文書には史料 ID のラベルが貼られ、目録化されています。



2. 埃まみれのゴミの山から救済された史料たち

藤本蚕業の社屋等に埋もれていた未整理の文書群が日の目を当てられたのは21世紀に入ってからのことでした。藤本工業から上田小県近現代史研究会に所蔵史料の整理の依頼があり、2003年8月から整理が始まりました。写真は史料の整理作業を記録した今となつては貴重な作業風景です。それから約6年の作業期間を経て2009年9月、目録完成に至り、10月、藤本蚕業歴史館が開設されました。



2009年10月3日、蚕都上田プロジェクト主催による「蚕都上田お宝発見 2009／蚕都上田展巡回ツアー」で藤本蚕業歴史館が社会に披露されました。



ちなみに2009年は、上田町が市政を施行してから90周年、横浜港の開港から150周年になります。日本一の蚕種製造地であった上田小県の蚕種、とりわけ藤本蚕業は日本の蚕糸業の発展に大きく貢献しました。日本の生糸は横浜から欧米に輸出され、貿易の主力商品となりました。蚕糸業の中心地であった上田小県が「蚕都」と呼ばれるようになった時期が市政施行の頃に当たります。



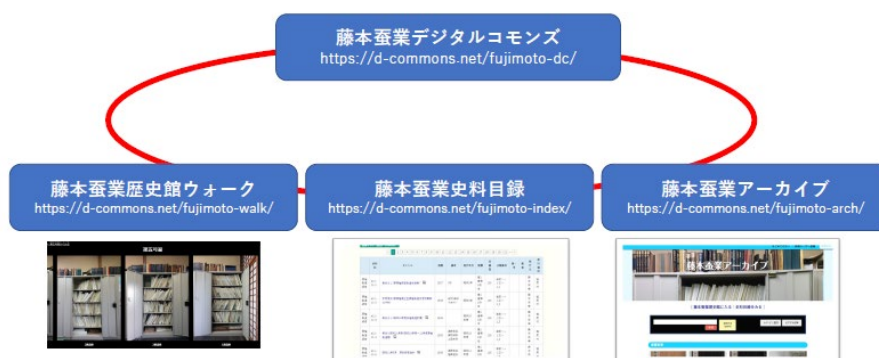
『藤本蚕業歴史館史料目録』は、藤本蚕業歴史館の1万点を超える収蔵史料を目録化した貴重な情報源です。

しかし、藤本蚕業歴史館はその後、展示室を見学に来られるケースは時折りあっても、所蔵史料が閲覧・研究に供される機会は極めて少なく、開設から約14年間にわたり、さらなるタイムカプセル化の状況に置かれ続けてきました。

3. これからの時代に活かす情報源

現代はデジタル化社会とされています。デジタル化は単なる技術的潮流ではなく、世界全体を支配してきたマスコミュニケーション（知識消費）型社会が知識循環型社会に大きくパラダイムシフトする数百年単位の大規模な転換点とされています。大量の複製物（書籍）の配布を可能にした活版印刷術の発明者グーテンベルク以来、500年来の大変革とも言われています。

紙がデジタルメディアに替わり、それまで局所に埋もれていた一次資料がデジタル化されネット公開されて、世界中の誰もが藤本蚕業歴史館の所蔵史料をいつでもどこでもだれでも可能にする社会状況に一変してきました。



『藤本蚕業デジタルコモンズ』は、世界中で忘れられてしまった蚕糸業、とりわけ蚕種製造業、その代表的企業であった藤本蚕業、そしてその中心地である上田市上塩尻を、子どもから高齢者まで、また、日本人であるか否かを問わず世界的視座から捉え直す新しい時代の情報資源です。

藤本蚕業プロジェクト（2022年～）は、先人たちが残してきた偉大な業績（蚕種製造業）、それを記録した膨大な知識資源（所蔵史料）、所蔵史料を整理し目録化した情報源を全て受け継ぎ、子どもからお年寄りまで誰もが情報源にアクセスできる「知識循環型社会」の新たな情報源となります。

4. 『藤本蚕業史料目録』『藤本蚕業アーカイブ』

『藤本蚕業デジタルコモンズ』(<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>)の各サイトに収録した史料データは『藤本蚕業歴史館史料目録』を底版としています。

★藤本蚕業史料目録

2009年に刊行された『藤本蚕業歴史館』(編集:上田小県近現代史研究会、発行者:藤本工業株式会社、全520ページ)を底本とし、全面的にテキストコード化したデータをネット上で検索できるデータベースに一元化し収録しました。

The screenshot shows the search interface for the Fujimoto Silk Industry Historical Record. At the top, there is a search bar with a search button and a '全部みる' (View All) button. Below the search bar, there is a '並び替え' (Sort) dropdown menu. The main content area displays a table of records with columns for '史料ID', 'タイトル', '西暦', '備考', '発行年月', '配置', '目録頁', '分類番号', '巻・号', '著者', '発行元', and '発行場所'. Two records are visible in the table.

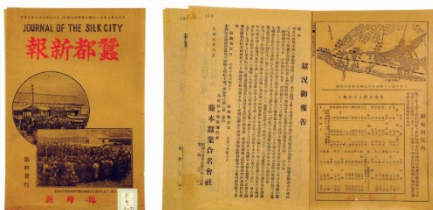
史料ID	タイトル	西暦	備考	発行年月	配置	目録頁	分類番号	巻・号	著者	発行元	発行場所
原簿製造続頁 11-1	裏紙なし(原簿製造続頁複製)	1927	3枚	昭和2年	第1巻第1号	126	前記1-1①-1,1			藤本工業	国民村
原簿製造続頁 11-2	参考様式(原簿製造立並原簿製造予定計画表他多数)	1928	資料(種多なし史料)	昭和3年	第1巻第1号	126	前記1-1①-1,2			藤本工業	国民村

<https://d-commons.net/fujimoto-index/>

5. 史資料セレクション

藤本蚕業歴史館所蔵史料と展示物から主なものをごく一部だけピックアップしました。

「蚕都新報」1920(大正9)年



[tp021] 「蚕都新報」1920(大正9)年 (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31059>

上田が「蚕都上田」と呼ばれるようになった年代や背景の裏付けとなる情報誌。

[tf021]藤本蚕業株式会社外観(昭和初期?)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1183&p=42403>

大正末か昭和初期。藤本蚕業社屋(現在の藤本蚕業歴史館の建物)が1927年に建築される以前の藤本蚕業の風景を記録した貴重な写真。





[tp033] [V2/1-1]蚕かひ乃学 全 (1841)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1183&p=31071>

藤本善右衛門保右(やすすけ)(1793~1865)による養蚕技術書。藤本蚕業の前身は旧佐藤宗家である。保右は当時の佐藤宗家当主。蚕種業の発展に大きく貢献した。



[to013]蚕卵台紙の変遷(2)枠製

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1184&p=42430>

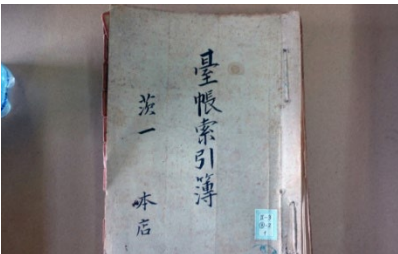
微粒子病が日本でも心配されるようになって、その対策のため、一枚の台紙を28の枠に区切り、枠の中に蛾を入れて卵を産ませた。



[to009]繭標本：長光×信和

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1184&p=42422>

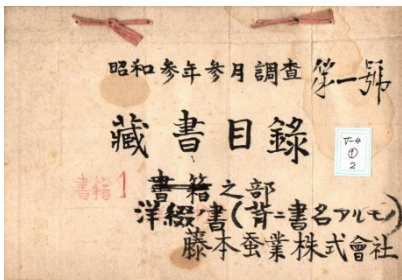
蚕種製造では繭の品質と量を向上させるため一代交雑種の技術が用いられた。長光は日本種、信和は中国種。展示室には他にも異なる品種の繭標本が展示されている。



[a23-32-1] 台帳索引簿 茨1本店 (1923)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1185&p=30820>

藤本蚕業と取引のあった各県ごとの顧客台帳。福島県、新潟県、山梨県等の台帳索引簿が残っている。茨城県は特に取引先が多く分冊になっている。



[a54-1-2]蔵書目録 第1号(洋綴之部) (1928)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1189&p=42360>

藤本蚕業は自社蔵書を目録化した。社員が蚕種製造等の専門知識の修得を図ること、広く教養を身に付けることをねらいとして蔵書につとめたものと思われる。



[cd-3-53]漫画明治大正史(1928)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1177&p=42530>

代田周一著、発行元：中央美術社。明治から大正にかけての世相をよく伝えるエピソードを漫画で綴ったユニークな社会史。当時のサブカルチャーを知る情報源としても貴重。



[dc-8-42] アサヒグラフ新年増刊婦人号 (1925)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1178&p=31020>

大正時代のグラビア雑誌がどのようなものであったかを知る情報源としても貴重である。当時の婦人（内外の令嬢や夫人）、女性ファッションなどが手にとるようによくわかる。



[cl-3-群-1] 蚕報 (1933)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1179&p=30947>

1933年1月1日号。『蚕報』は群馬県蚕種業組合(前橋市)が発行する業界紙。藤本蚕業には、他県の複数の業界紙があり、各地の情報源として利用していたことがうかがわれる。



[e1908-21-1]金刺文献図北海道(一)大正十四年版(1925)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1181&p=42605>

藤本蚕業は全国の取引先等との関係からか、全国の分県地図が所蔵されていた。これらの地図は約100前の記録である点、社会の変遷を知る希少な情報源である。地図の細部を見ると北海道開拓の基盤の目状の道路がはっきりとわかる。

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業「藤本蚕業資源活用事業」

藤本蚕業歴史館へのいざない ～藤本蚕業歴史館と所蔵史料の紹介～【概要版】

【発行日】2023年3月31日

【編集・発行】藤本蚕業プロジェクト（代表：前川道博）

【事務局】長野大学前川道博研究室

〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1

TEL 090-22270-5074 メール maekawa@nagano.ac.jp

【ウェブサイト】藤本蚕業デジタルコモンズ

<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>

